

H29年管工事2級学科試験 問題

No1 湿り空気に関する記述のうち、適当でないものはどれか。

- 1 空気中に含むことのできる水蒸気量は、温度が高くなるほど多くなる。
- 2 飽和湿り空気の相対湿度は、100 %である。
- 3 露点温度は、その空気と同じ絶対湿度をもつ飽和空気の温度である。
- 4 絶対湿度は、湿り空気中の水蒸気の質量と湿り空気の質量の比である。

答え--- 4

絶対湿度は、湿り空気に含まれている水分の量と乾き空気の量との重量割合。

No2 次の指標のうち、室内環境と関係のないものはどれか。

- 1 気流
- 2 予想平均申告 (PMV)
- 3 浮遊物質 (SS)
- 4 平均放射温度

答え--- 3

浮遊物質 (SS) は水質汚染、浄化槽などの指標である。

No3 流体に関する記述のうち、適当でないものはどれか。

- 1 流体の粘性の影響は、流体に接する壁面近くでは無視できる。
- 2 レイノルズ数は、層流と乱流の判定の目安になる。
- 3 毛管現象は、液体の表面張力によるものである。
- 4 ベルヌーイの定理は、エネルギー保存の法則を示したものである。

答え--- 1

粘性流体の検討にて、固体と流体の境界面がまさつに大きな影響を与え、流体のまさつの減少をもたらすので無視できない。

この過去問は受講者専用のページです。
お申し込みされますと全ての過去問がご覧頂けます。
お早目のお申し込みお待ちしております。

受講お申込みはこちらから



<https://www.sekou-net.jp/entry/>